

授業科目 (ナンバリング)	コミュニケーション技術 (DD202)			担当教員	久田 貴幸		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・前期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
この科目は、対象者との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を学び、介護実践に必要なコミュニケーション能力を養うことをねらいとする。その必要な知識や技術を身につけるために、学生は、利用者役、介護者役、その家族、地域住民等の立場になって考える演習や事例を通して様々な立場になり、自分なりの方法で表現するコミュニケーションのスキルを身につける。							④⑤⑦
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	コミュニケーションに係る内容を説明することができる。				定期試験	50%	
情報収集、分析力	コミュニケーションに係る情報を収集し、それらを分析し、自己の課題について明確化することができる。				課題レポート	10%	
コミュニケーション力	ホスピタリティの精神に基づいて、他の人の意見を傾聴するとともに、コミュニケーションに係る課題について自分の意見を明確にした上で、相互理解を図る議論に参加できる。				課題レポート 課題演習	10% 10%	
協働・課題解決力	コミュニケーションに係る課題を的確に把握し、他の人と協力して課題解決に向けた方策を立案し、実行する営みに寄与することができる。				課題演習	20%	
多様性理解力							
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験 (50%)、課題演習 (30%)、課題レポート (20%) により総合的に評価する。 ・定期試験は、コミュニケーション技術についての基礎知識と技術に関する筆記試験の形式で実施する。 ・課題レポートは、コミュニケーションに関するポイントや知識など課題についてレポート化し、提出後フィードバックにおいて情報を共有する。 ・課題演習は、ロールプレイやグループワークの態度について、専門職者としての相応しさについて評価する。なお、発表内容に関しては、授業内にコメントすることでフィードバックする。 							
授業の概要							
介護におけるコミュニケーションの基本 (意義・目的・役割)、介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション、介護におけるチームのコミュニケーション、介護を展開する際に必要なコミュニケーションの知識と技術についてグループワークによる議論やプレゼンテーション等を展開する。また、本科目においては、レスポンス等の ICT を活用することで、双方向型の授業を展開する。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：八王子言語聴覚士ネットワーク編『やさしいコミュニケーション障害学-基礎からわかる言語聴覚療法の実際』 三輪書店							
参考書：最新 介護福祉士養成講座 『コミュニケーション技術』 中央法規出版							
指定図書：八王子言語聴覚士ネットワーク編『やさしいコミュニケーション障害学-基礎からわかる言語聴覚療法の実際』 三輪書店							
授業外における学修及び学生に期待すること							
この科目は、介護福祉士指定科目「コミュニケーション技術」60時間の内の30時間 (必須) であり、ケアワークコースの学生は必ず受講する必要がある。介護福祉士として特に必要な、利用者の心身状況に応じたコミュニケーション技術身につけるため、主体性を持ち積極的に授業に参加してほしい。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	コミュニケーション技術のねらいと目的	対人援助におけるコミュニケーションの基本について理解する。	予習：これまでの学びを振り返る 復習：シラバス内容確認
2	介護におけるコミュニケーションの意義・目的・役割	介護におけるコミュニケーションの意義・目的・役割について学修する。	予習：介護におけるコミュニケーションの意義・目的・役割を調べる
3	介護を必要とする人とのコミュニケーション①	本人の置かれている状況を理解し、支援関係を構築や意思決定を支援するためのコミュニケーションの基本的な技術を習得する内容で話を聴く、技法、利用者の感情を察する技法（気づき、洞察力など）納得と同意を得る技法、相談・助言・指導含む。	予習：感情表現を察する技法について考える 復習：察する技法の要約
4	介護を必要とする人とのコミュニケーション②	相談・助言・指導、意欲を引き出す技法・利用者本人と家族の意向を調整する技法について学修する。	予習：納得と同意について考える 復習：技法の要約
5	介護における家族とのコミュニケーション	家族の置かれている状況・場面を理解し、家族への支援やパートナーシップを構築するためのコミュニケーションの基本的な技術を習得する。事例 A 氏	予習：課題について自身の考えをまとめる。 復習：演習時の反省
6	障害の特性に応じたコミュニケーション①	障害の特性に応じたコミュニケーション技術の基本的な技術①感覚機能・精神障害がある人とのコミュニケーションについて学修する。 （実務家ゲストスピーカーによる講義の可能性あり）	予習：精神・感覚機能について調べる 復習：授業内容の要約
7	障害の特性に応じたコミュニケーション②	障害の特性に応じたコミュニケーション技術の基本的な技術を習得②知的障害・高次脳機能障害がある人とのコミュニケーションについて学修する。 （実務家ゲストスピーカーによる講義の可能性あり）	予習：知的・高次脳機能について調べる 復習：授業内容の要約
8	障害の特性に応じたコミュニケーション③	障害の特性に応じたコミュニケーション技術の基本的な技術③運動機能・認知症・その他の障害がある方とのコミュニケーションについて学修する。 （実務家ゲストスピーカーによる講義の可能性あり）	予習：運動・認知機能について調べる 復習：授業内容の要約
9	介護におけるチームのコミュニケーション・記録による情報の共有化①	情報を適切にまとめ、発信するために、介護実践における情報の共有化の意義を理解し、その具体的な方法や情報の管理について、介護における記録の意義・目的・介護に関する記録の種類について学修する。	予習：記録の種類を調べる 復習：記録の種類の確認
10	介護におけるチームのコミュニケーション・記録による情報の共有化②	記録の方法、留意点、管理、介護記録の共有化について学修する。	予習：記録の管理方法を調べる 復習：記録の管理方法確認
11	介護におけるチームのコミュニケーション・記録による情報の共有化③	情報通信（IT）を活用した記録の意義、活用の留意点 介護記録における個人情報保護、介護記録の活用、その他について学修する。	予習：IT での記録の方法を調べる 復習：IT 記録媒体の再確認
12	介護におけるチームのコミュニケーション・報告・連絡・相談①	報告・連絡・相談の意義と目的及び方法、その他について学修する。演習を行い、報連相について学ぶ。	予習：報連相の意味を調べる 復習：報連相の要約
13	介護におけるチームのコミュニケーション・報告・連絡・相談②	会議の意義と目的・種類・方法・留意点、その他について学修する。	予習：会議の意味を調べる 復習：介護における介護の意義・目的の要約
14	演習	模擬会議の実践（演習）と記録及び情報の共有化について学修する。	予習：自分の役割を認識する 復習：自己のコミュニケーションスタイル再確認
15	コミュニケーション技術総括	介護におけるコミュニケーション技術について総まとめを行う。	復習：後期内容の復習
16	定期試験		